2012年春夏の女子学生ファッション

著者名(日)	荒木 京，芳住 邦雄
雑誌名	共立女子大学家政学部紀要
巻	59
ページ	1-9
発行年	2013-01
URL	http://id.nii.ac.jp/1087/00002857/

Creative Commons : 表示 - 非営利 - 改変禁止
http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/3.0/deed.ja

共立女子大学家政学部紀要　第 59 号　(2013)

2012 年春夏の女子学生ファッション

荒木　京*・芳住邦雄*

Fashion trends in the 2012 Spring-Summer
Seasons of Female College Students

Miyako ARAKI and Kunio YOSHIZUMI

This study discusses the fashion trends of female college students who represent the young women population in our society. Their fashion preferences in the 2012 spring and summer seasons were examined to obtain information on the most preferred items through a questionnaire of 268 students aged between 18 and 22 years old. Cluster analysis was applied to seven questions with respect to fashion behaviors. As a result, two clusters—fashion trend following and personal fashion consciousness—were computed as influential factors. The fashion trend of over 11 items with respect to tops was further investigated. Peplum dress and bi-color shirt were found to be the most leading as the spring–summer fashion items of choice. That is, those items were more intensively supported by more fashionable students.

1. はじめに

被服は、その起源論をひとつとってみてもさまざまな研究分野で、それぞれの専門的立場から多くの論議がなされてきた。それは衣服が単に暑さや寒さを防ぐという生理的な機能の他に、多くの複雑で多様な社会的・文化的機能を持っているためである。

人間は社会的動物と称されるように他者との人間関係を無視して生きることができない存在である。他者との交わりのうちに生活することを求め、自己の存在をアピールし、相手に認められたいと願う新たな欲望、すなわち社会的欲望を形成し、その充足を図る生活を求めるようになった。

社会的存在としての人間は、仲間集団に同調した衣服を身につけたり、女らしさを強調した装いをしたり、非日常的な思い切ったおしゃれをすることで、自己のアイデンティティを確認・強化・変容し、高級ブランドの衣服を身につけて自己の社会的地位や価値観などのファッション情報を伝達する。また、社会的に好ましい外見を作ることで、他者との間で社会的相互作用の促進を図ることが、意識の根底にある。すなわち、着装は自己実現のための有力な対象である。そこには、社会的な大きな流れがあり、それに抗すると同時に、受け入れることによる充足感が得られる[1~6]。一方では、独自欲求という概念を取り上げると、人びとは人と違うよう望むが、しかしあまりに違いすぎることは好まない。したがって、時代や世間が好む基本的な動向には同調し、その動向の枠組み内で他者との違いを表現したり個性を示したりしようとするのが流行現象である[1~9]。

*家政学部被服学科

本研究はこうした流行現象の支配要因を念頭におきながら女子大生を対象として、2012 年春夏のファッションアイテムにおけるトップスの特徴を明らかにすることを主たる目的としている。

2. 研究方法

2. 1. 流行意識のアンケート調査

アンケート調査は、2012 年 5 月に実施した。関東圏に在住する 18 歳から 22 歳までの女子大学生 267 名を対象に、質問紙による集合調査法で調査を実施した。調査項目は、先行研究を参考にして設定した、ファッション意識に関する 7 項目および、2012 年春夏の流行トップス・アイテムに関する 11 項目である。これらの 18 項目に対して、4 段階尺度で回答を求め、解析に当たっては、4 点から 1 点までの評価得点を割り振った。

2. 2. ファッション意識の解析

ファッション意識の解析には、クラスター分析を用いた。相関係数に基づく Ward 法により解析した。流行意識に関わるアイテムのクラス

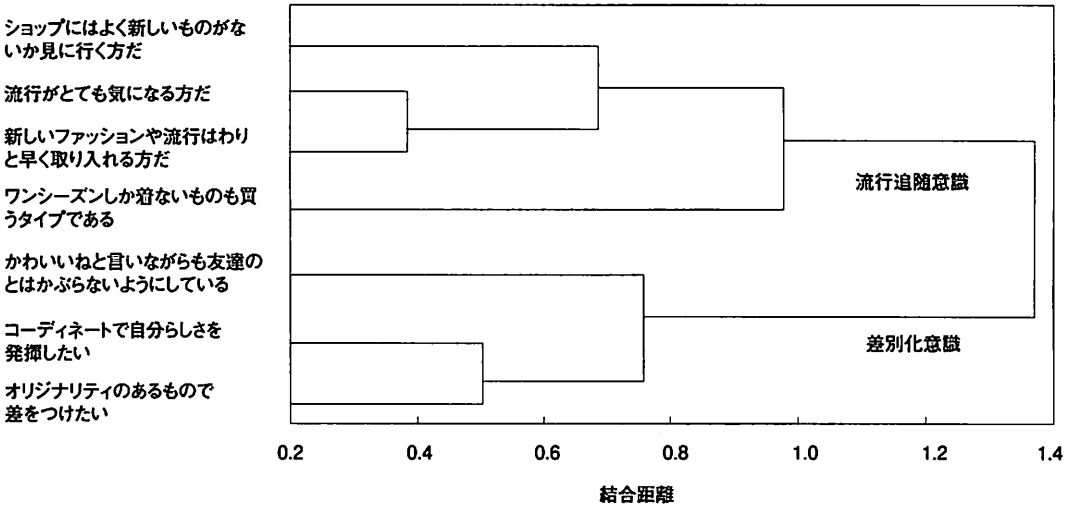

図 1　女子学生の流行意識に関わるクラスター分析

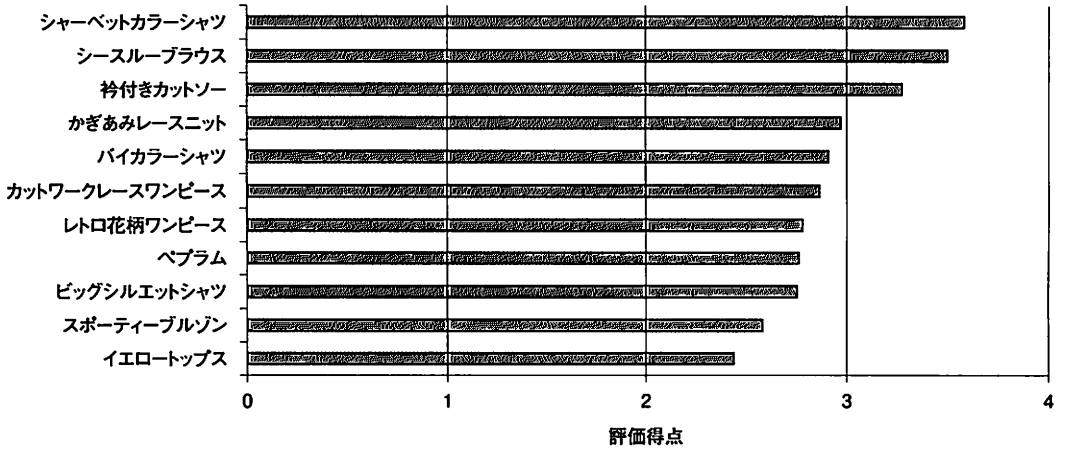

図 2　2012 年春夏トップス・アイテムの流行評価

ター分類と流行アイテムとの関連を検討した。流行アイテムの流行評価では、評価得点を集計して行った。

3. 解析結果および考察

3.1. ファッション行動の意識構造

ファッション行動に対する意識を明らかにするために、7項目に対する267名の回答をもとに、クラスター分析により解析を行った。その結果は、図1に示したとおりである。結合距離に基づき、2個のクラスターの存在が明きらかとなった。

第1クラスターは「ショップに新しいものがないか見に行く方だ」、「流行がとても気になる方だ」、「新しいファッションや流行はわりと早く取り入れる方だ」、「ワンシーズンしか着ないものも買うタイプである」といった項目から構成されているので、『流行追随意識』として解釈した。

第2クラスターにおいては、「かわいいねといいながらも友達のとはかぶらないようにしている」、「コーディネートで自分らしさを発揮したい」、「オリジナリティのあるもので差をつけたい」という項目から構成されているので、『差別化意識』と解釈した。

ジンメルは1911年に発表した論文の中で、「流行とは他者に同調する模倣と流行に同調しない他者との差異化との統一である」と述べた[10]。流行は同調と差別化により構成される。つまり、流行を追う心理には、人々と同じようにしたいという気持ちと、他人とは違っていたいという気持ちが共存することを述べたのである[11~12]。女子大生においてもワンシーズンしか着ないにも関わらず、流行を追った服を着たいという流行に同調する『流行追随意識』意識と、友達を意識しながらも違うものを着たいという『差別化意識』を同時に持ち合わせていることが主成分分析により明らかとなった。100年経てもジンメルが社会学的理論として述べている両仮説の理論が、現在の女子学生のファッション意識にも反映されていると言える。

また、神山は流行を「ファッションつまり流行は、ダイナミックな集合過程である。新しいスタイルが創造され、市場に導入され、大衆によって広く受け入れられるようになるのは、このような集合過程を通してである。個性と同調、また自己顕示欲求と所属欲求といった個人にとっての両面的価値と、そのいずれの価値をどの程度重視するかは、ファッションにどのように関わるか、すなわち流行事象への関与のレベルをどの程度にするか、あるいはファッショントレンドとどの程度の距離をおくかなどを決める要因になる。」と説明している[13]。

こうした思考の原理は、本研究での女子学生を対象とした限定的な調査結果に対しても適用しうると考えられる。

3-2. 2012年春夏アイテムの流行動向

図2は、調査対象者全員のトップス個々のアイテムに対する流行度合いの評価得点である。4段階評価であるので、最高評価が4点であり、最低評価が1点である。ここでは、調査対象者全員の評価得点の平均値を示してある。2012年春夏では、シャーベットカラーシャツとシースルーブラウスがアイテムの最上位を占めており、誰でもが認める流行ファッションであると結論される。

シャーベットカラーはパステルカラーをさらに淡くした色の一種で全体が淡い色合いのものを指している。海外の高級ブランドが2012年春夏のキーカラーとして使用した色調である。中でも、LOUIS VUITTONの2012春夏コレクションで、非常にインパクトがあったとされている。甘いカラーはもちろん、レースや、透ける素材、ふんわりした素材で、女の子っぽさや、乙女な感じを全面に演出しうるものである。シャーベットのような甘い雰囲気がある。

もともと国内でも春夏はパステルカラーのような淡い中間色が人気ではあったが、2012年、震災後初めてのショーで色味がやわらかく、気

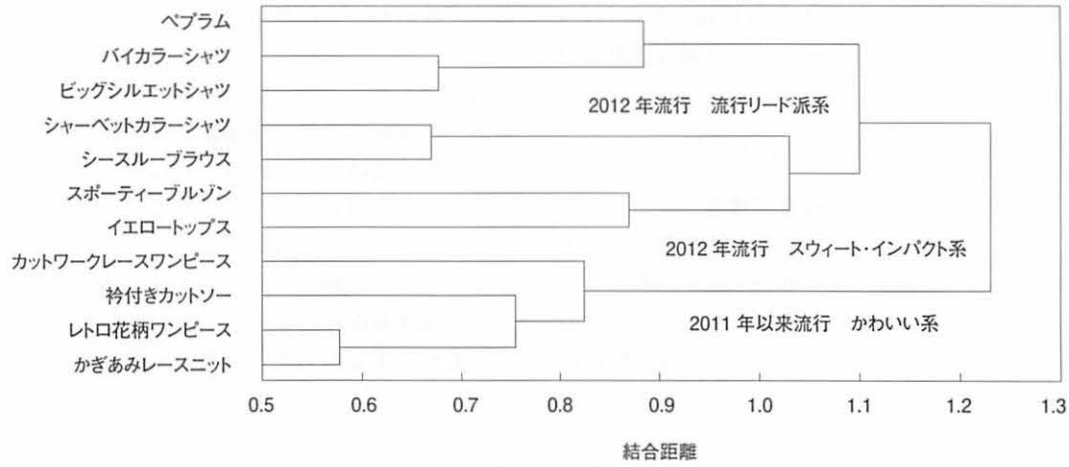

図 3　2012 年春夏トップス・アイテムの流行評価に関わるクラスター分析

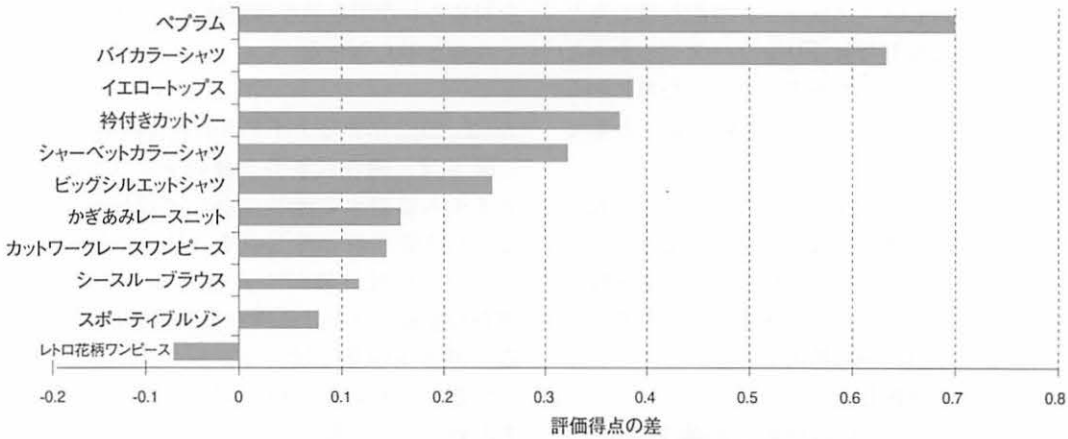

図 4　2012 年春夏トップス・アイテムの流行意識による評価
(流行追随意識上位学生と下位学生の評価得点の差)

分を和ませてくれるパステル・パウダー系色や、ロマンティックな白、ポジティブムードを引き寄せるイエロー、オレンジなどのカラーで「ハッピーな気分になれるように」という願いを込めて発表したことが話題になった色調である。

洋服以外にも靴やマニキュアなどさまざまなアイテムに幅広く使われ、色展開が豊富である。白やベージュなどの定番色とも合わせやすく、手持ちの服と組み合わせて手軽に取り入れることが可能となる。手持ちのベーシックな服に合うものを一つだけ選んで取り入れれば、それだけでトレンド感あるコーディネートが出来上がり、特に、白や「ニュアンスカラー」と呼ばれる微妙なベージュなどは、柔らかい色調同士でなじみやすいと言える。

一方、シースルーとは、透けて見える、透き通る意味で、シフォンやオーガンジーなどの薄手の布を使って、洋服の生地から肌が透けて見えるようなデザインの服装のことをいう。非常に薄い布地を用いる他に、デザインによって身体の部分やライン、肌色などが透けて見えるようなファッションもある。

歴史的にも存在した「透けるファッション」をシースルー・ルックとして打ち出したのが、1960年代後半のフランスのデザイナーたちであった。なかでも、1968年にドレスでセンセーションを巻き起こしたイヴ・サンローランが有名である。1989年春夏コレクションでは、再び透けるファッションが話題となった。ロメオ・ジリ、クロード・モンタナ、コム・デ・ギャルソンなどである。布の軽やかさ、軽快さ、重ねられた素材や色の効果といった点がポイントになっている。

2011年頃からシースルーのシフォンやオーガンのブラウススカートなどが流行する兆しは存在したが、2012年春夏で開花したと言える。

図3は、2012年春夏トップス・アイテムの流行評価に関わるクラスター分析の結果である。トップス11アイテムについての被験者全員の流行評価得点に基づき、結合距離を求めた。大略は、3個のクラスターに分類されると結論される。第1クラスターは、2012年流行 流行リード派系であり、ペプラム、バイカラーシャツ、ビッグシルエットシャツにより構成されている。第2クラスターは、2012年流行 スウィート・インパクト系であり、シャーベットカラーシャツ、シースルーブラウス、スポーティーブルゾン、イエロートップスで構成されている。以上の第1および第2クラスターは、全体としては、2012年春夏の最新流行アイテムを構成していると見ることができる。

第3クラスターは、2011年以来流行 かわいい系であり、カットワークレースワンピース、衿付きカットソー、レトロ花柄ワンピース、かぎあみレースニットで構成されている。これらは言わば2011年春夏以来の継続して女子学生に受け入れられているアイテムである。女子学生好みのいわゆるかわいい系の要素が強めであるためと考えられる。

3.3. ファッション・アイテムの評価

図4は、クラスター分析で得られた流行意識に基づいて調査対象者を分け、2012年春夏アイテム評価への影響を検討した結果である。すなわち、流行追随意識上位学生と下位学生の評価得点の差を横軸に取り流行追随意識の高い学生と、低い学生における平均値の差を以って、流行アイテムの順位付けを行った結果である。ペプラムとバイカラーシャツが、歴然たる上位2アイテムとなっていることが明白である。これらは、流行追随意識の高い学生たちが注目している先を行くアイテム、もしくはこれから広まっていくアイテムとも言える。

ペプラムはウエスト部分から下をフレアなどで裾広がりにするデザインである。一度キュッと絞られたウエストの下から、ふわっとフリルが広がるシルエットであるため、身体のラインを強調しつつも、後ろ姿までメリハリのある体形に見せてくれる。ウエスト部分が少し高めの位置でくびれており、腰を細く、脚を長く見せる視覚効果が期待できる、優れたデザインと言える。ペプラムは、1940代後半から50年代にかけて一度大流行したものである。そんなペプラムが時を経て、2012年の春夏アイテムとして注目を集めており、2012年の秋冬も引き続き大人気のデザインとなりつつある。

ペプラムは、若い世代向けのブランドだけではなく、大人の女性向けのハイブランドまで、広く流行しているトレンドアイテムでもある。上品な甘さとスタイルアップ効果があり、重心が上って女らしいスタイルに見せる特徴がある。図5にその着装例を示した。

バイカラーのバイ(bi)とは2のことである。ファッションで言うと2色配色という意味になる。同系色や、コントラストのある2色が一般的には用いられる。バイカラーで定番なのがモノトーンの「白」と「黒」である。無彩色(黒・白・灰色)を組み合わせると、落ち着いたイメージに仕上がる。派手な色の組み合わせでも、バイカラーなら、色が2色なので、クラッシックなイメージにもなる。色というのは単色だけではなく、組み合わせることで様々な

図 5　2012 年春夏におけるペプラムによる着装

図6　2012年春夏におけるバイカラーによる着装

効果を与えることが出来ると言える。ワンピースやスカートでは、裾、襟元や袖などの場所にバイカラーをあしらったものが多く見かけられる。バイカラーの持つ意味を上手に利用して、やわらかいイメージを持つカラーもスタイリッシュに引き締めることも可能である。図 6 にその着装例を示した。

4. 総括

本研究では、女子大生のファッション意識を2012 年春夏の流行アイテム動向に着目して、解析した。18 歳から 22 歳までの女子大学生267 名を対象に、質問紙による集合調査を行った。まず、ファッション行動に対する 7 項目にクラスター分析を適用した。その結果、2 個のクラスターが抽出された。第 1 クラスターは流行追随意識として、第 2 クラスターは差別化意識として解釈された。これらの解析結果は、ジンメルの流行意識に関わる社会学的理論と合致していると考えられた。

さらに、トップス・アイテム 11 項目に対する評価結果を解析した。2012 年春夏では、シャーベットカラーシャツとシースルーブラウスが、認知度の高い流行ファッションであると結論された。さらに、クラスター分析で得られた結果に基づいて調査対象者を流行追随意識の高い学生と低い学生に分け、2012 年春夏アイテムの評価得点の平均値の差により各アイテムの流行度合いを評価した。ペプラムとバイカラーシャツが、流行追随意識の高い学生による注目度が高いことが判明した。

また、流行評価においては、経過年次および印象類型化の影響が存在することが、窺われた。

謝辞：本研究遂行に当たっては、家政学部被服学科学生の多大なる協力を得ました。ここに深甚なる謝意を表します。なお、掲載写真は、当該学生の同意を得て、本著者（荒木）が撮影したものです。

参考文献

1）鈴木理紗、神山進『被服と自己呈示に関する研究 -「被服によって呈示したい自己」および「自己呈示に係わる被服行動」』繊維製品消費科学、44（11）、2003、652-665

2）辻幸恵、高木修、神山進、牛田聡子、阿倍久美子『着装規範に関する研究（第 7 報）：着装規範同調・逸脱がもたらす感情と規範意識高低による差異』繊維製品消費科学、42（11）、2001、28-34

3）牛田聡子、高木修、神山進、阿倍久美子、辻幸恵『着装規範に関する研究（第 8 報）：着装規範同調・逸脱がもたらす着装感情を規定する個人差要因（自意識・自尊心・独自性要求）』繊維製品消費科学、42（11）、2001、35-42

4）神山進『被服による消費者の自己拡張 - 被服は消費者の自己拡張をいかに生み出すか』繊維製品消費科学、52（2）、2011、92-94

5）神山進『変身の消費者心理 』彦根論叢、377、2009、59-92

6）神山進『繊維ならびにアパレル製品の小売市場と消費者行動（1）』彦根論叢、221、1983、97-120

7）平野英一『流行のシステムと消費』繊維製品消費科学、42（12）、2001、10-15

8）Solomon Michael R. Fourth ed『Consumer Behavior』Prentice-Hall、1999

9）辻幸恵『流行に敏感である女子大学生の特性とそれに関する要因分析』京都学園大学経営学部論集、9（2）、1999、89-108

10) G.Simmel、円子修平、大久保健治 訳『文化の哲学 - ジンメル著作集 7-』白水社、1976

11) 辻幸恵、田中健一『流行とブランド』白桃書房、2004

12) 山崎茂雄、辻幸恵、立岡浩、生越由美、林紘一郎、鈴木雄一『デジタル時代の知的資産マネジメント』白桃書房、2008

13) 神山進『繊維ならびにアパレル製品の小売市場と消費者行動 (2)』彦根論叢、224、1984、219-257